

第30期第12回常任理事会議事録

日 時：1999年7月12日(月) 13時30分～16時00分

会 場：気象庁気象学会事務局(8階)

出席者：廣田, 二宮, 上窪, 木田, 澤井, 関口, 田中(博), 中村(誠), 新野, 藤部, 村松以上11名

その他の出席者：館(事務局)

議 事

1. 第30期第11回常任理事会議事録の確認

2. 各委員会関連議事

庶務…転載許可2件

(1) 日本気象学会大会講演予稿集に掲載された論文の利用許可(2件)

1) 1997年秋季大会72号 P. 256 (D213)

2) 1998年秋季大会74号 P. 272 (P126)

の2点を(株)富士総合研究所刊行の冊子へ転載

(2) 天気に掲載された論文の利用許可(2件)

1) 天気37巻 P. 129～136

2) 天気37巻 P. 521～526

の2点を古今書院出版の冊子へ転載

・後援名義等使用依頼受付：2件

名称：第13回数値流体力学シンポジウム

1) 主催：日本数値流体力学会

2) 期日：1999年12月21日(火)～23日(木)

3) 場所：中央大学理工学部春日キャンパス(文京区春日)

4) 名義：協賛

名称：第238回講習会(使える最先端流動解析とその応用例)

1) 主催：日本機械学会関西支部

2) 期日：1999年度10月19日(火)～20日(水)

3) 場所：大阪科学技術センター中ホール(大阪市西区靱本町)

4) 名義：協賛

・平成10年度分複写使用料分配に伴う調査について：標記調査の依頼が学術著作権協会からあった。これに対して、会員数の現況、および、機関紙(会誌)として天気、論文誌として気象集誌・気象研究ノートの発行状況を報告の予定。

・コンピューター西暦2000年問題への対応について(依頼)：文部省より標記事項について調

査報告依頼があった。これに対し、気象学会事務局関連では西暦2000年に関して特段の問題がないことを報告の予定。

・「新教養の気象学」300部追加刊行の通知(朝倉書店より) 6月24日

・各支部に対して1999年度交付金を、また、北海道・中部・関西に対して文部省夏季大学補助金を交付 6月25日

・1998年度事業報告・収支決算報告書、理事変更登録完了届、定款の一部変更許可申請書の3点を文部省へ提出 6月29日

・文部省平成11年度科学研究費補助金「研究成果公開促進費(4,510,000円)」交付決定通知書受領

・科学研究費補助金に係る審査委員候補の推薦について(依頼)：標記依頼に対して細目「地球化学」の第1段審査委員候補者

2名

分科「地球科学」の第2段審査委員候補者

1名

を推薦 平成11年7月8日提出

・国際学術研究会への出席補助金を2名に対して支給。なお、補助金の支給をすでに決定していた1名より辞退の連絡あり。

・学会大会予稿集の印刷業者(秋76号、春77号)：トーコー印刷(株)に決定。

会計…1999年度6月分の収支報告。

天気…Vol. 46 No. 7(1999年7月号)掲載記事と No. 8, 9, 10号掲載予定記事の報告。8月号から新企画「天気の教室」が掲載開始となる。

気象研究ノート…編集作業進捗状況の報告。1999年度印刷業者学術図書印刷(株)に落札。197号予定の「温帯低気圧の力学」については、Tex(電子出版)で作成印刷予定。

講演企画…福岡秋季大会における大会託児施設に関する取り組みの状況の報告、および大会時託児施設について学会(理事会)がどう関わるのかについて明確にしておく必要があるとの問題提起が行われた。これを受けて議論が行われ、以下のようなことが確認された：託児施設の斡旋は引き続き必要である。学会では講演企画委員会が窓口となりネットワークや

メーリングリストなどを使って託児施設の幹旋についての問い合わせ先などの情報提供を行う。理事会は実行委員会に対して大会託児施設の幹旋を正式に依頼することにし、実際の対応は実行委員会でもらう。また、学会からの金銭的支援は行わない。ただし、これまでの例のように、実行委員会が予算状況等から判断して支援が行われることはありうる。

教育と普及…委員会の報告

1998年度国立19大学地学系学科主任会議による『大学入試センター試験、理科「化学・地学」の分離に関する要望書』について：主任会議に問い合わせたところ、要望書の提出先である大学入試センター長および文部省高等教育局長からの返答もなく、その後動きがないことがわかった。要望書の内容の紹介だけでなく、要望書が出された背景、学習指導要領がどのようにして決められているのかなど、地学教育に関して事実関係を整理して「天気」に掲載することを検討している。

3. 会員加入状況

新入会員14名を承認、退会5名。7月5日現在、会員数4,675（内、通常会員4,146名）。

4. 「山本・正野論文賞」候補者投票結果について

理事全員の投票により、1999年度山本・正野論文賞の受賞者として、加藤輝之会員（気象研究所）と山本 勝会員（和歌山大学教育学部）に決定した。

5. 「堀内賞」候補者投票結果について

理事全員の投票により、1999年度堀内賞の受賞者として、松枝秀和会員（気象研究所）と原蘭芳信会員（農業環境技術研究所）に決定した。

6. 「奨励賞」候補者投票結果について

理事全員の投票により、1999年度奨励賞の受賞者として、須田卓夫会員（秋田地方気象台）と松浦健次会員（宮崎地方気象台）に決定した。

7. 総会成立（2分の1条項達成）のための方策について

春の学会における委任状の回収状況について分析した資料等をもとに議論が行われた。議論の概要は以下の通り：

- ・今回の定款の改訂にともない学会運営が危機的状況にあることについての認識が十分徹底していない、また、改訂について知らない会員がまだかな

り多数いると思われる。これらの会員に現状を知らせることが必要である。

- ・気象官署や大学、研究機関等の何らかの組織に属する会員については、組織の実状に合わせた委任状回収のための連絡体制をしっかりと作り、少なくとも8割以上の回収が可能となるようにする必要がある。
- ・どのような組織にも属さない会員からの委任状回収が課題である。「天気」による呼びかけ、郵送、電話、メールなど各種の方法を使った呼びかけを行う必要がある。
- ・メソ、GAME、ym-net等の既存のメーリングリストを利用して委任状提出の呼びかけをできないか。また、将来の課題として会員のメーリングリストを作成することを検討する必要がある。メールによる委任状を認めるというのも検討課題である。しかし、これについては、本人の確認という点で問題が生じないか。
- ・総会に出席するしないにかかわらず全会員から委任状を提出してもらうようにし、総会に出席した場合にはその会員の委任状を破棄するという方法に変えてはどうか。
- ・他学会の委任状の例を参考にして委任状の形式についても議論が行われ、現在の委任状の形式である全任という選択とともに、各議案ごとに賛否の意志表明ができるようにするのが適当であるという結論になった。

以上の議論をもとに、木田理事を中心として具体案及びそれを実施するタイムスケジュールのたたき台を作り、9月の常任理事会以降それについて検討する。そして、秋の全国理事会でその内容についてアナウンスする。

8. その他

- ・オゾンシンポジウム（札幌2000）の準備状況について、組織委員会から提出された資料による報告
- ・地球惑星科学関連学会連絡会（6月10日開催）の報告

2000年開催の合同大会およびWPGMについては、現在以下の日程で合意がなされている。

2000年合同大会：2000年6月25日（日）～28日（木）、国立オリンピック記念青少年総合センター

2000年WPGM：2000年6月27日（日）～30日（金）、国立オリンピック記念青

少年総合センター

WPGM については、AGU 側との非公式な会合が持たれ、財政的負担は全て AGU が引き受け、日本側の実行委員会は会場の手配や social program などについて引き受けることが決まった。プログラム委員会が今後セッションの募集を行い、セッションの分担について各学会に協力を依頼することになる。気象学会としても、シンポジウム 2 つ程度を受け持つことになりそうである。また、気象学会からの実

行委員会委員は通常任理事が勤める。

合同大会については、2001年以降の合同大会及び連絡事務局の体制について検討が行われている。そのために、幹事会を作り、2001年以降の運営体制を定める会則のたたき台を作ることになった。合同大会は現在1500人規模となり、大き過ぎてボランティアでは限界に近い、このため引き受け手がないなどの問題が生じており、曲がり角に来ているのではないかと思われる。

日本気象学会および関連学会行事予定

行事名	開催年月日	主催団体等	場所	備考
メソ数値予報とその応用に関する公開セミナー・ワークショップ	1999年11月8日 ～10日	気象庁 (後援)(財)シップアンド オーシャン財団	気象庁 (東京都千代田区大 手町1-3-4)	「天気」46巻9月号
日本気象学会1999年度秋季大会	1999年11月24日 ～26日	日本気象学会	アクロス福岡 (福岡県福岡市中央 区天神1-1-1)	「天気」46巻5月号
第22回極域気水圏シンポジウム	1999年12月8日 ～9日	国立極地研究所	国立極地研究所講堂 (東京都板橋区加賀)	「天気」46巻7月号
台風強度予測のメソスケールモデル相互比較に関する国際ワークショップ (WMO/COMPARE 第3事例：1990年台風19号 Floの急発達)	1999年12月13日 ～15日	科学技術庁、気象庁、 WMO	気象庁講堂 (東京都千代田区大 手町1-3-4)	問い合わせ先 気象庁予報部数値予報課 美濃寛士 Tel：03-3212-8341(内線 3305) E-mail： hmino@npd.kishou.go.jp
第46回風に関するシンポジウム	1999年12月21日	日本建築学会(幹事学会) 等11学会	京都大学防災研究所 D-570号室 (宇治市五ヶ庄)	
第13回数値流体力学シンポジウム	1999年12月21日 ～23日	日本数値流体力学学会	中央大学理工学部春 日キャンパス (文京区春日)	
理論応用力学講演会	2000年1月25日 ～27日	日本学術会議メカニク ス・構造研究連絡委員会	日本学術会議講堂 (東京都港区六本木)	
第15回オホーツク海と流水に関する国際シンポジウム 第2回氷海における海底油 田パイプラインに関する ワークショップ	2000年2月6日 ～10日	オホーツク海・氷海研究 グループ、北大低温研、 紋別市、(社)北方圏セン ター	紋別市民会館・紋別 市文化会館 (北海道紋別市)	
第2回北極環境国際シンポジウム 第5回ニーオルスン科学セ ミナー	2000年2月23日 ～25日	国立極地研究所、ニーオ ルスン観測調整会議 (NySMAC) 他	国立極地研究所 (東京都板橋区加賀)	「天気」46巻10月号